

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号 (電話) 0134-33-1811		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(20年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤	22人 非常勤 6人 常勤換算 19.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1～3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	20,000 円
			(10～4月) 8,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要(9月 3日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	9 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院 木下病院 千葉歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

寺院を営む運営者が経営するグループホームであり、3人の男性管理者が職員のスキルアップのため協働して切磋琢磨している様子が見えます。自己評価や外部評価での取り組みもしっかりとした前向きの姿勢で対応が見られます。職員の年齢的バランスも良く、また、経験をフルに発揮しながら利用者の暮らしの支援にあたっています。隣接のデイサービスとの連携も良く、お互いに長所を伸ばす努力が続けられているほか、地域との付き合いの拡大にも取り組み、努力を重ねています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の取り組み課題となった「地域との付き合い」「ほかの業者との交流」は運営者及び管理者の積極的な対応により成果が見られます。また、「重度化・終末期に向けた方針の共有」並びに「災害対策」も鋭意検討中であるなど、前向きな姿勢が見られます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の項目を職員全員で、日頃の反省と気づきをもとに作成されるなど、評価を通じたサービスの向上に対する認識の深まりが見られます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の開催回数が守られ、内容も多方面にわたるなど、会議を通してのサービス向上は適切に行なわれています。改善計画シートの利用や会議メンバーの柔軟な組み入れによる内容の充実も考慮されています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情対策委員会に運営推進会議のメンバーを加えていることは大変良いことです。意見箱の設置や窓口の紹介もありますが、家族の来訪時の職員との会話を大切にしています。会話の中での家族の意見や要望・苦情を聞き流しにせず、処理簿に記入し、職員全員で共有して改善に向けた検討が行なわれています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との付き合いを深めるため、町内会行事への参加など前向きな取り組みが見られます。町内会の廃品回収や祭りの手伝いなど、職員が地域にとけ込む努力から始まっています。近隣住民の方々がホームの祭りに参加をしていただくよう呼び掛けも行なわれているなど、利用者が地域での暮らしに馴染めるよう取り組みが続けられています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価では、地域に密着したホーム運営について、独自の理念作りが懸案となっていました。運営者及び管理者、職員が一体となって地域密着型の理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の各所に掲示されているほか、職員間で共有し、実践ができるよう努めておりますが、まだまだ不足ではないかとの認識の下、職員の間で啓発に向けた取り組みが行なわれています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの立地により、地域の交流はこれまであまり進んでいませんでしたが、管理者が率先して地域への行事や会合に参加しながら、利用者も参加できる土壌作りが行なわれています。最近では町内会の理解のもと地域との付き合いがより深まりつつあります。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価による取り組みは、改善されたものの、継続して取り組んでいるものなどがあり、評価に対する認識は深いものがあります。今回の自己評価の作成に当たっても、職員全員へ評価表を配付し、各職員の気づきや反省をまとめながら作成されています。		

小樽市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前は開催回数が少なく、内容豊富な定期的な会議の開催への取り組みが課題でしたが、管理者の積極的な取り組みにより、見事に改善しています。利用者の様子や職員の行動をつぶさに見ていただき理解を求めると、サービスの質の改善に貢献しています。今後は改善計画シートの利用と会議への提出も計画されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の運用や生活保護を対象とする利用者の暮らしに反映させるため、市の担当窓口への訪問は定期的に行なわれており、ホームの運営状況を知らせるとともに、情報の収集やアドバイスをいただきながらサービスの向上に努めています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行されるユニット毎の「お便り」は、写真をふんだんに掲載して利用者の日々の暮らしを家族の方々に伝えています。居室担当職員の手紙が添えられ家族の安心を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も用意されていますが、特に家族の方々が来訪時の会話の中から意見や要望・苦情などを聞く努力が行なわれています。聞き流しを防止するため、意見などの処理受付簿の記入により、運営推進会議のメンバーも含む、苦情対策委員会による素早い対応が行なわれるなど運営に反映されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前に比べ職員の異動は少なく、異動による影響は殆んど見られず、利用者と職員の落ち着いた暮らしを見ることができます。また、居室担当職員が都合で退職する場合も、ほかの職員の心配りと連携により、利用者への影響に対する配慮が十分に行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修スケジュールが立てられ、内部研修や外部研修にも積極的な対応が見られます。介護福祉士などの資格取得への挑戦にも、シフト変更などの便宜を図るなどして、職員全体のスキルアップに努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に出席しながら、ほかの業者との情報交換が行なわれています。近隣のグループホームとの管理者による相互訪問も行なわれており、今後は職員も含めた相互訪問も計画されるなど、サービスの質の向上を目指しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、職員が自宅などを訪問したり、利用者や家族の方々にホーム見学をしていただき、雰囲気馴染めるように、また、安心して生活ができるよう十分に話し合いを持ちながら、利用ができるよう配慮しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と同じ目線でともに支えあう関係を大切にし、少しでも多くの会話を交えて一緒に楽しんだり、昔のことを教えてもらうなど和やかな関係を築いています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との毎日の暮らしの中で、一人ひとりの思いを大切にしています。利用者や家族からの生活歴などの情報を収集しながら、その人らしい暮らしができるよう努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は1ヵ月の暫定プランを作成して、直ぐに支援できる体制が取られています。入居後は担当職員を中心に日勤者、計画作成担当者、介護支援専門員によるカンファレンスが行なわれ、家族や医師の意見を取り入れながら、介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月を目途にアセスメントの見直しやモニタリングを行ない、カンファレンスで課題や改善点を話し合い、計画の見直しを行なっています。また、状態の変化や入退院の際には利用者、家族、医師との話し合いで随時、計画の変更が行なわれています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の方々の事情や要望に応じて、通院介助やお墓参り、買物に付き添うなど、その時々で柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続希望する利用者には、そのまま受診をしていただいています。ホームでは複数の医療機関との契約により、24時間対応の協力を得ているほか、2週間に一度の往診、3ヵ月毎の定期健診の実施など、適切な医療が受けられるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みについては、その時々で家族の方々との話し合いが行なわれていますが、具体的な対応策がまだまだ不十分であり、職員全員が方針を共有するまでには至っていません。	○	既に看取りの経験もあることから、重度化や終末期に伴う対応指針を作成し、医療機関や家族の方々とは相談しながら、対応に万全を期すとともに、職員全員が把握し、共有することを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの確保は日々職員間で気配りをしています。利用者への言葉掛けや対応に気づきがあった場合は、職員全員で話し合うなどして改善に努めています。書類の整理、保管についても改善されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が思い思いの衣服、化粧、マニキュアなどでお洒落な暮らし、また、タバコをこよなく愛する利用者など、一人ひとりのペースを大切にした暮らしへの支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	暮らしの中で一番の楽しみは食事であることを職員は十分認識して、楽しい雰囲気づくりに努力しています。調理の下拵えや食後の後片付けなど、利用者のできることは積極的に参加していただき、楽しく張りのある暮らしへの支援が行なわれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎で、若干の違いがあるものの、利用者のペースに合わせた入浴の支援がされています。隣接のデイサービスの大きな展望風呂や市内の日帰り温泉での楽しみも取り入れています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでのメリハリのある暮らしが継続されるため、カレンダーの日付を変える利用者、入居時に持ち込んだ金魚の世話、ゴミ投げ、朝食作りの手伝いなど、さまざまな役割りや楽しみごとが日常的に展開されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら日常的に散歩などが行なわれ、外気に触れての気分転換が図られています。デイサービスとの共用のマイクロバスを利用して、買物、外食、トウモロコシ採り、水族館見学など、ドライブも兼ねた外出機会が作られています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外は、日中の施錠はされていません。また、ユニット間での自由な行き来を好む利用者もいます。ユニットの入口にはセンサーが設置され出入りを把握することができます。		

小樽市 グループホーム ハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただいた救急救命講習、消火訓練や自主的な避難訓練も行なわれていますが、近隣の住民の方々との協力、支援体制がまだ不十分です。	○	災害の際の緊急避難場所として、予め運営者の寺院が決められているなど周到さが見られますが、近隣住民の方々の協力や支援は欠かすことができません。運営推進会議や町内会などに要請しながら、災害対策に係わる協力体制への取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者により異なる水分摂取量や食事量の違いを職員は十分に把握しており、日々の申し送りやチェック表により適切な支援が行なわれています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内の昔懐かしい足踏みオルガン、愛煙家のための喫煙室、季節を感じるリビングの飾りつけ、利用者の作品展示、ユニット毎に設けられた3箇所トイレなど、居心地の良い共用空間への配慮が見られます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトは利用者と家族に委ねられ、ベットや使い慣れた家具などが持ち込まれ、安心して暮らしができるように支援されています。神棚や仏壇なども置かれている居室もあります。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。